

糖尿病の患者さんへ

糖尿病と神経障害

監修

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院 糖尿病内科主任部長

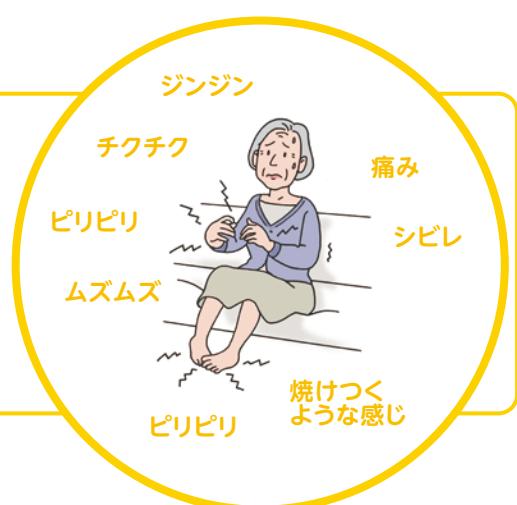
松岡 孝 先生

糖尿病による合併症のうちで、「神経障害」は最も早くから合併し、頻度の高い症状です。神経障害は、一般的に「知覚神経障害」「自律神経障害」「運動神経障害」の順で症状が現れてきます。

知覚神経の障害

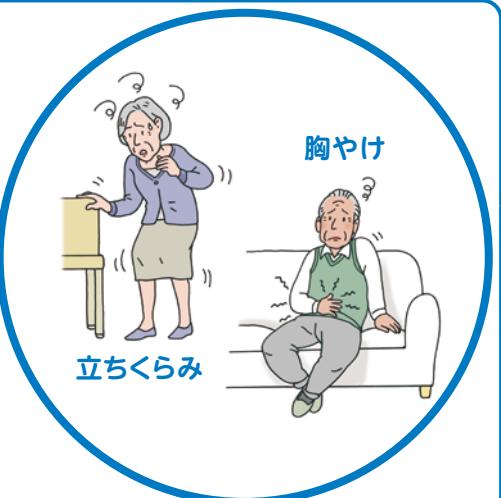
- 足、手のシビレ、痛み
左右の足先→足全体→両手に広がる
- 症状の感じ方は人によって様々
- 進行すると痛みを感じなくなり、
やけど、傷に気付かない

自律神経、運動神経の障害も
はじめのうちから進んでいきますが、
症状として現れにくいです。



自律神経の障害

- 無自覚性低血糖*
- 味覚がおかしい
- 暑くないのによく汗をかく、
汗がでない
- 立ちくらみ
- 食後の胃もたれ、胸やけ
- がんこな便秘、下痢、
便秘と下痢をくりかえす
- 勃起不全



運動神経の障害

- 筋力が落ちる
- 歩行障害

*無自覚性低血糖：低血糖にもかかわらず、動悸、冷汗、ふるえなどの低血糖症状を自覚しないこと。低血糖症状が出ないまま意識を失う(昏睡)こともあります。

神経障害は早期に発見することが大切です

少しでもシビレ、痛みを感じたら、すぐに主治医に相談しましょう。

神経障害は、症状がなくても、検査でわかることがありますので、主治医にお尋ねください。



自律神経障害は脈拍数でわかることがあります。

朝、安静にしているときの脈拍数が早い方

(90~100回以上)は

自律神経障害の可能性があるので、

主治医に相談しましょう。



自宅で血圧を測るときは、脈拍数も記録しておきましょう。

神経障害を防ぎ、改善するために よりよい血糖のコントロールを!

神経障害を予防するためにも、まずは、よりよい血糖コントロールを目指しましょう。

血糖コントロールをよくすることで、痛みやシビレの症状が改善することがあります。

血糖コントロールを行っても症状が持続するときは、シビレ・痛みをやわらげる薬を使います。



参考 血糖を急に下げたときに起きる痛み(治療後有痛性神経障害)

血糖が高い状態が長く続いた後に、急に血糖を下げたとき、1~3カ月後にシビレや強い痛みが起こることがあります。以前は「インスリン神経炎」とも言われていましたが、インスリン以外の治療でも起こります。長い間、血糖が高かった患者さんでは、できるだけゆっくりと血糖を下げることが大切です。